

委員会の目的及び 北海道新幹線倶知安駅の検討状況について

令和3年5月21日

1. 委員会の目的とスケジュール（案）

（1）委員会の目的

- ・令和12年度末（2030年度末）の北海道新幹線開業を目指し、北海道新幹線倶知安駅（以下、「新駅」という。）周辺施設の整備に向けた各種検討を進めており、令和2年度に学識経験者及び町内各種団体推薦者の8名で構成された「北海道新幹線倶知安駅駅舎デザインコンセプト検討委員会」を立ち上げ、新駅駅舎デザインコンセプトの決定、駅前広場及び都市施設の整備に向けた具体的な検討を行いました。
- ・今後もこうした取り組みを継続し、新駅周辺の整備とまちなかの賑わい創出に向けた取り組みを推進するため、上記の委員会を継承し、更に幅広い検討ができるよう委員を2名増員した「北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会」を設置することとしました。

令和2年度

北海道新幹線倶知安駅
駅舎デザインコンセプト
検討委員会

目的：地域の意見を反映させた
駅舎デザインコンセプトの決定、
駅前広場や都市施設の整備に向
けた検討

継承



+

委員を増員

令和3年度

北海道新幹線倶知安駅
周辺整備推進委員会

目的：新駅周辺の整備とまちな
かの賑わい創出に向けた取り組
みの推進

1. 委員会の目的とスケジュール（案）

（2）今年度の検討内容

① 新駅の駅前広場の歩行空間のあり方の検討

- ・新駅駅前広場の歩行空間を多目的な憩いの空間とするために、駅前広場のあり方について検討を進めます。検討結果は、今年度発注を予定している駅前広場の設計業務に反映することを想定しています。

② 新駅の都市施設に導入する機能とその規模及び配置の検討

- ・新駅と隣接する高架下と駅前広場に、観光案内、飲食、物販などを提供するための都市施設の整備を予定しており、今年度は都市施設に導入する機能とその規模及び配置といった具体的な検討を行います。

③ ②の結果を反映した「新駅整備に関する要望書」の検討

- ・今年度末に鉄道・運輸機構へ提出する「新駅整備に関する要望書」に上記の②で検討した都市施設の検討内容を盛り込み、新駅駅舎の設計と一体的に都市施設の設計を進めることを想定しています。

（3）スケジュール（案）

第1回（本日）	第2回（7月）	第3回（9月）	第4回（11月）
東口駅前広場レイアウトの検討			決定
都市施設の検討・基本計画の策定			決定
新駅整備に関する要望書の検討			決定

2. 駅周辺整備スケジュール

（１）駅及び駅周辺整備のスケジュール

- ・北海道新幹線開業に向け、新幹線建設を担っている鉄道・運輸機構（ＪＲＴＴ）により、現在、駅部の土木設計が進められています。
- ・鉄道・運輸機構の整備スケジュールを確認しながら、倶知安町では、駅周辺施設の協議・設計と駅周辺施設の工事を予定しています。

（２）駅舎デザイン決定までの流れ

STEP 1 : 鉄道・運輸機構が自治体に対して、駅舎デザインコンセプトの検討を依頼

STEP 2 : 自治体が駅舎デザインコンセプトを検討し、要望書にまとめ、鉄道・運輸機構へ提出

STEP 3：要望書の内容を受け、鉄道・運輸機構が駅舎デザイン素案（通常3案）を自治体へ提示

STEP 4：駅舎デザイン素案（3案）から自治体が推薦案を1案選定し、鉄道・運輸機構へ提出

表.北海道新幹線倶知安駅整備スケジュール（倶知安町想定）

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
	10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業年度
新幹線駅舎整備 (JRTT)		駅デザインコンセプト 作成依頼	デザイン素案作成	駅設計へ反映							
駅周辺整備・ まちづくり等		駅周辺施設の協議・設計					駅周辺施設の工事				
		①駅舎デザイン コンセプト検討	②都市施設 基本計画策定	③JRTTへ 要望書提出	④JRTTから デザイン 3案提出						
				⑤駅舎デザイン 推薦案検討	⑥JRTTへ 推薦案提示						
							【考えられる事業】 ・駅前広場、都市計画道路、駐車場等の整備 ・観光案内施設、飲食・物販施設、待合室等の整備				

令和12年度開業

※青字：倶知安町が実施する内容

※黄字：事業主体は要検討

3. 前年度の検討状況

(1) 駅舎デザインコンセプト

■ 駅舎デザインコンセプト ⇒令和2年度に決定

羊蹄の四季の恵み

～ふるさとと世界が出会う駅～

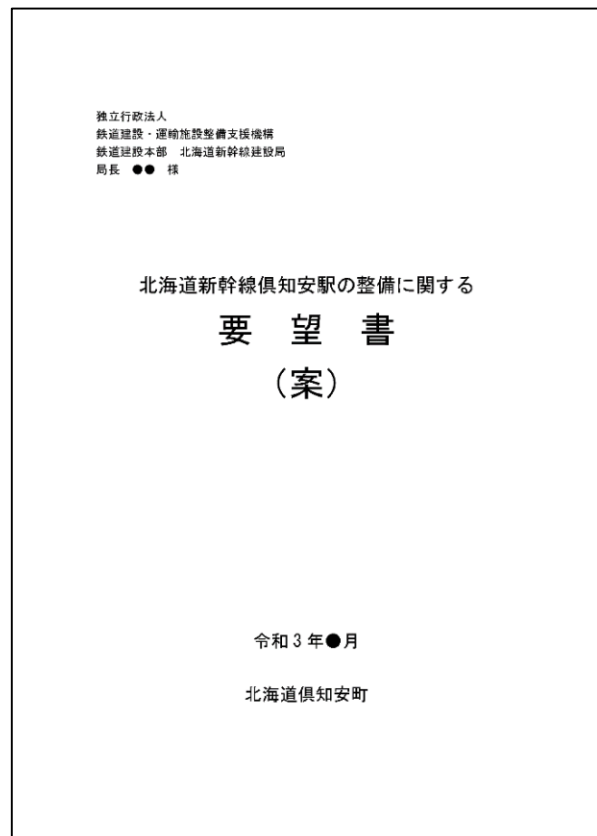
■ 要望書に掲載する駅舎デザインコンセプトの説明文（案）

羊蹄山は、豊かな自然資源に恵まれた羊蹄山麓エリアの象徴であり、地域住民の心の拠り所ともいえる存在です。「羊蹄の四季の恵み」という言葉には、新たな駅舎づくりにあたって、四季折々の顔を持ち豊かな自然に恵まれたこの地域のシンボルでもある羊蹄山と調和するような駅づくりを目指したいという地域の願いを込めています。さらに、豊かな自然の恵みの中で先人がつくり上げてきたこの地域特有の風土を「ふるさと」という言葉で、新幹線を利用して世界中から地域を訪れる来訪客を「世界」という言葉でそれぞれ表し、地域住民と来訪客の交わりによって新たな賑わいの拠点を生み出していきたいという願いを「ふるさとと世界が出会う駅」というイメージで表現しました。

3. 前年度の検討状況

(2) 要望書 (案)

- ・昨年度決定した駅舎デザインコンセプト以外に、説明文 (案) や附帯意見 (案) を記載した要望書 (案) を作成しています。



駅舎デザインコンセプトと説明文(案)を記載



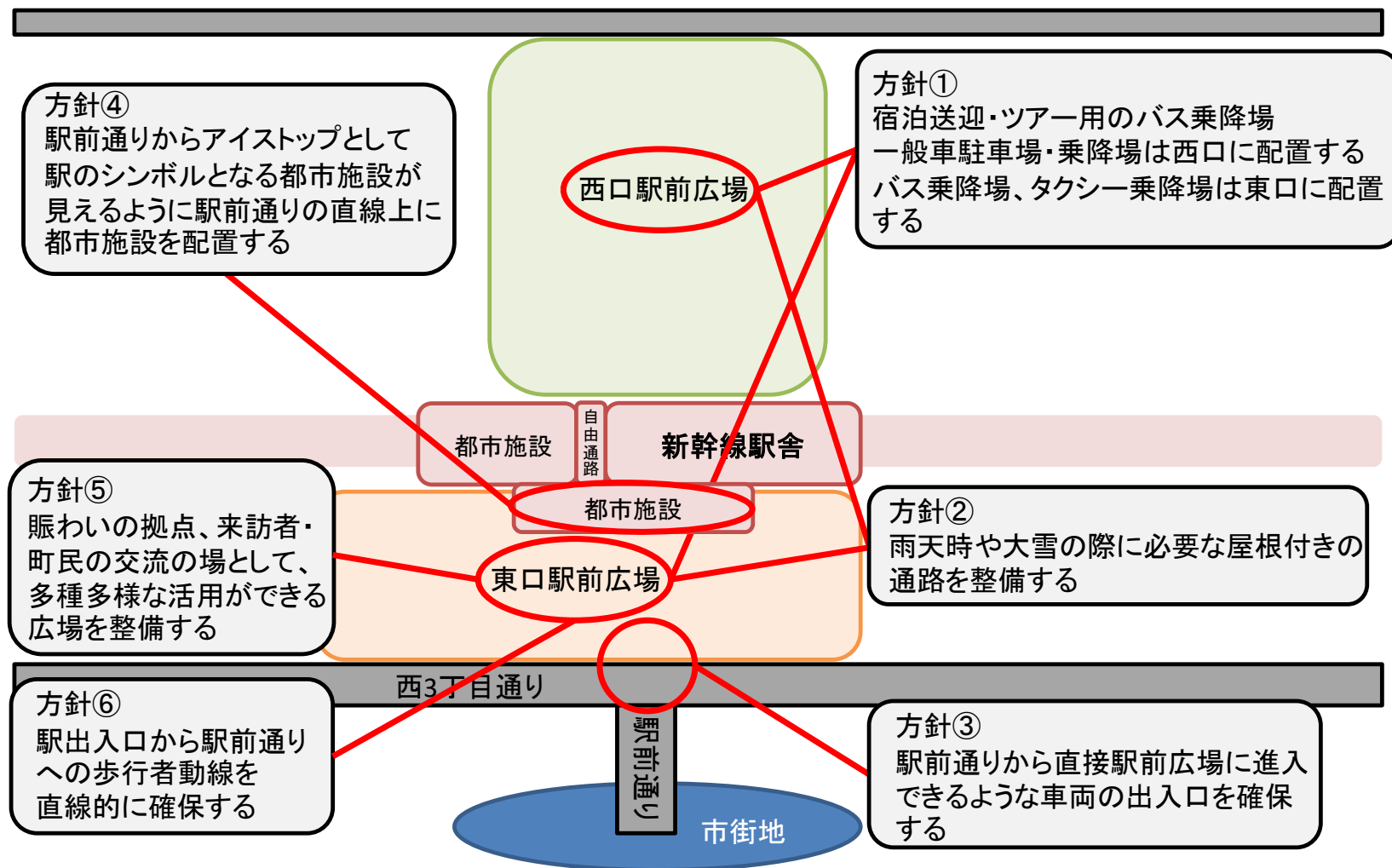
駅舎デザインに関する附帯意見とイメージ(案)を記載

3. 前年度の検討状況

(3) 駅前広場

■ 整備方針の検討

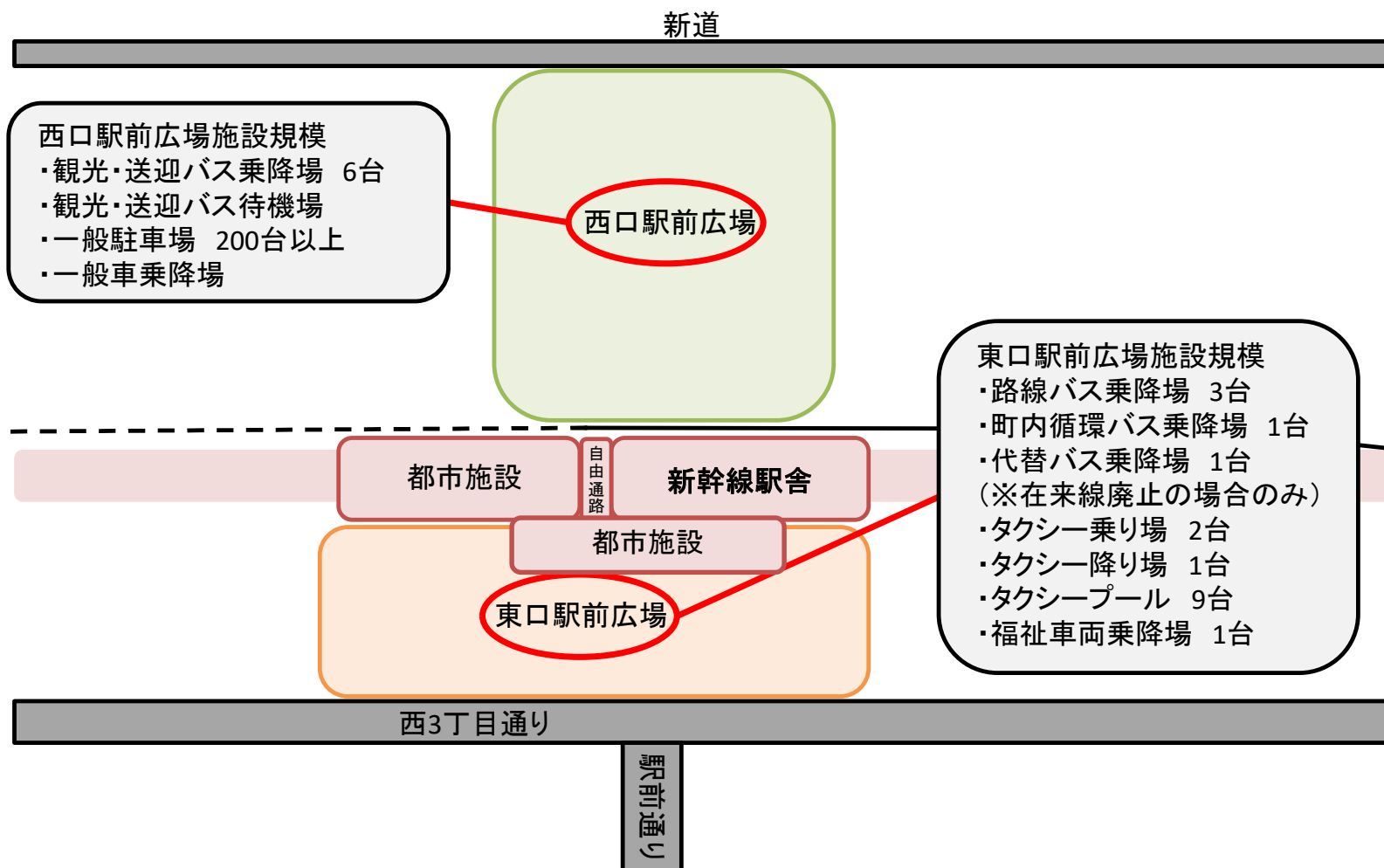
- ・ 東口：倶知安町内・周辺町村への利用主体の駅前広場
- ・ 西口：ニセコひらふ地区・花園地区への利用主体の駅前広場



3. 前年度の検討状況

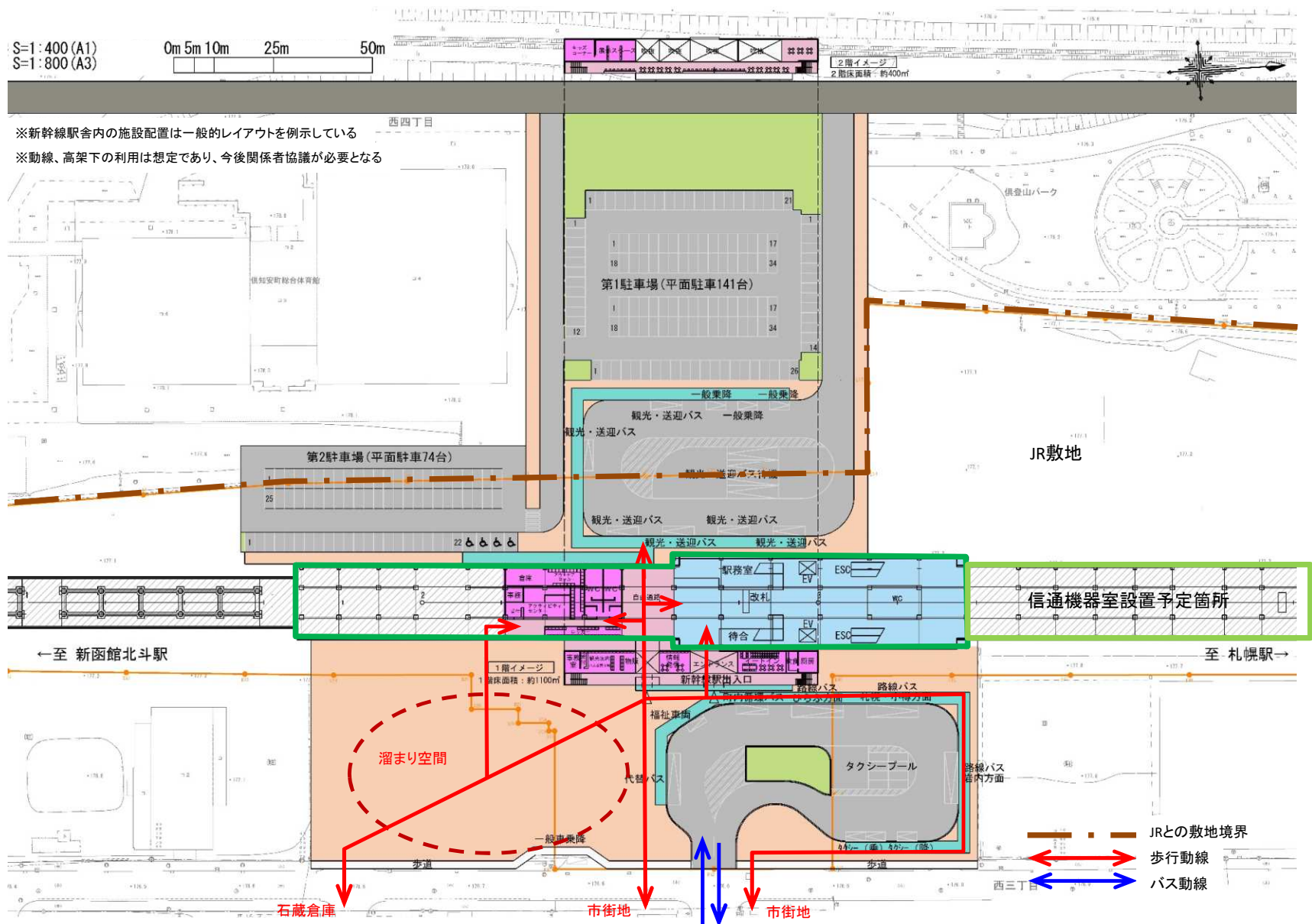
■ 交通施設規模の検討

- ・ 東口：観光・送迎バス以外の二次交通は、東口に配置
- ・ 西口：まとまったスペースを確保する必要のある駐車場は、駅舎の西側に配置



3. 前年度の検討状況

■ 在来線廃止の場合 ～都市施設分散型～



■ 在来線存続の場合



3. 前年度の検討状況

(4) 都市施設

- ・新駅の整備構想、整備計画及び町民アンケート調査の結果を踏まえ、都市施設の導入機能や具体施設（案）を検討しました。また、国内の既存新幹線駅の都市施設を参考に、国際的なリゾート地でもある当町の特性を踏まえ、都市施設の各導入機能の面積（暫定）を設定しています。

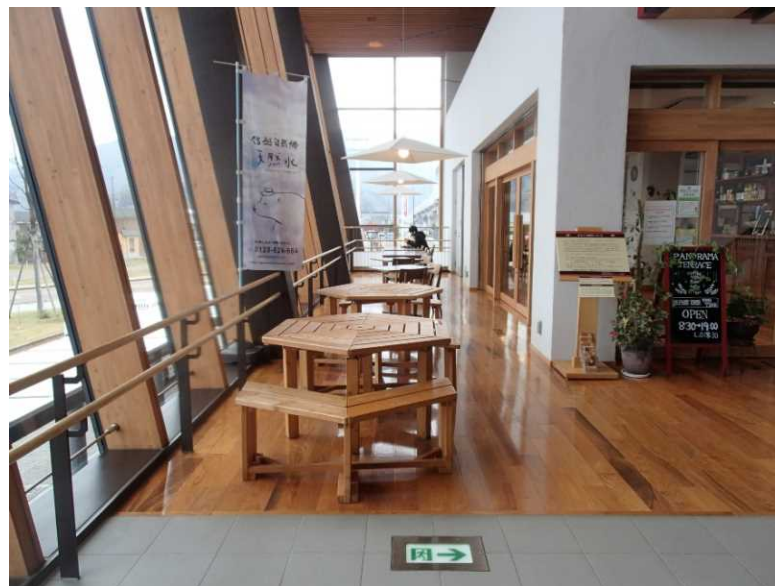
※なお、検討中の案であるため、今後検討を進める中で導入機能や面積など大きく変更となる場合もあります。

導入機能	具体施設(案)	面積(㎡) ※設定値	備考
情報発信機能	観光案内所 情報発信スペース 展示スペース	約130	○観光案内所には、コンシェルジュを配置する ○観光案内所にバス乗車券売機を設置することを想定 ○北陸新幹線新高岡駅の都市施設内の観光案内所＋ギャラリー（約40㎡）を参考に設定
手荷物一時預かり機能	コインロッカー クローク	約150	○スキーも置ける大型ロッカーも置く ○越後湯沢駅の都市施設内のコインロッカー（約50㎡、標準サイズのコインロッカー198個）を参考に設定 ※上記のコインロッカーは、冬期のアウトドアコインロッカーのみの面積・個数
物販・飲食機能	売店 テイクアウト専門店	約170	○売店：飯山駅の都市施設内の商業施設(Newdays)（約80㎡）を想定 ○テイクアウト専門店：飯山駅の都市施設内の1階の食事処（約40㎡）＋2階のカフェ（約70㎡）の計約120㎡を参考に想定
休憩機能	待合所 ラウンジ キッズコーナー	約210	○待合所は、交流機能を含む。ラウンジは、羊蹄山を望むイメージ ○飯山駅の都市施設内の観光交流センター（約120㎡）を参考に設定
トイレ機能	トイレ	約115	○トイレは、多目的トイレ、授乳室を含む ○新函館北斗駅（約80㎡）を参考に設定

参考資料：既存新幹線駅の都市施設の様子



北陸新幹線飯山駅(観光交流センター)



北陸新幹線飯山駅(2Fカフェ)



上越新幹線越後湯沢駅(コインロッカー)



北陸新幹線新高岡駅(観光案内所)